

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 20 日現在

機関番号：24403

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2016

課題番号：26861935

研究課題名(和文) 日本・韓国・在日未婚カップルの家族計画に影響する価値観に関する基礎的研究

研究課題名(英文) The values of family planning among unmarried couples composed of a mix of Japanese, South Korean nationals, and Ethnic Koreans born in Japan (Zainichi)

研究代表者

高 知恵(椿知恵)(Koh, Chie)

大阪府立大学・看護学研究科・助教

研究者番号：60582319

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本や韓国では少子化、晩婚化、晩産化などの社会現象が生じているが、若い未婚カップル達は、結婚や家族形成に対して積極的な見解をもっており、ワークライフ・バランスについても取り組みたい意欲を持っている一方、家事、育児と仕事の両立が困難となり、職業を中断するという可能性も感じていた。

背景の異なる国際未婚カップルのセクシュアル・ヘルス支援として、新たな家族計画を望むカップルへの家族計画指導や男女両方への妊娠、出産、育児に関する知識および技術の提供、国籍やルーツが異なることで生じる不安や課題が解消できるような相談窓口の開設と正確な知識提供が医療専門職者として実現すべき支援であると考えられた。

研究成果の概要(英文)： This study demonstrated that Japan, Korea, and Zainichi international unmarried couples had positive feeling about marriage and new family planning, and anxiety with value of Confucianism, and different nationality/ root. Furthermore, there might be a possibility that gender roll or traditional values based on Confucianism affected the sexual health as interruption of working after childbirth.

There might be a possibility that gender roll and Confucianism affect the sexual health in them. It is clarified that health professionals provide the knowledges and skills about family planning and child rearing, and premarital sexual health counselling for international unmarried couples among Japan, Korea, and Zainichi.

研究分野：セクシュアル・ヘルス

キーワード：セクシュアル・ヘルス 未婚カップル 日本・韓国 在日コリアン

1. 研究開始当初の背景

(1)日本と韓国は、共に深刻な少子高齢化社会を迎えている。また、両国ともに妊娠先行型結婚も増加している。先行研究では妊娠先行型結婚の特徴として、若年層が多いこと、夫の学歴が低いこと、家族の収入が低いこと、母性不安度が高いこと、児への愛着的感情が低いこと、夫婦満足度が低いこと、などが明らかとなっており(盛山ら、2011; 本田ら、2010)、本人たちの十分な納得や準備が、本来の家族機能を果たすことにつながり、夫婦円満の促進、育児不安や子ども虐待、ドメスティックバイオレンスの予防になる可能性が高い。そのため、次世代への家族計画支援は重要な意味を持つ。

(2)妊娠先行型結婚から生じる問題は社会的な因子とも複雑に絡み合っており、看護のみならず、社会学、経済学、人口動態学などの分野の見地も踏まえた支援が必要である。現在、医学、看護学、社会学、経済学などの多分野で妊娠先行型結婚に関する研究が実施されており、人口学的動向や社会的背景を明らかにしているものはいくつか存在する。しかし、対象群を用いた比較研究や質的研究はほとんどなく、医学・看護学の研究に関しても明らかにされているエビデンスはほとんどない。また、看護支援の実施に関する研究もない。日本では、未婚者の間で妊娠先行型結婚を容認する傾向があり(吉川ら、2007)、今後も増加する可能性は高い。しかし、「妊娠先行型結婚」に至るまでの、カップルの考え方や価値観は様々である。もちろん、妊娠しても結婚という形式をとらない場合もある。望まない、予期せぬ妊娠をした場合どうするのか、妊娠・結婚への準備はできているのか、大切にしている家族観や価値観は何なのか・・・このような家族計画に影響する価値観を明らかにした上で、焦点を当てたセクシュアリティへの支援を実践することは、若い世代が幸せな家庭を築き、その機能を維持、遂行するための支援になりうる。

(3)日本と韓国は地理的、歴史的に共有する背景に加え、儒教的遺産とその強い文化的影響を共有している。しかし、同じ儒教であっても韓国の儒教は家族主義が強く残されており、父親が一家の長であり、男性が優位であるとの意識が強い。この儒教に関する価値観は、家族計画に強く影響する要因であると予測される。日本や韓国は、欧米諸国に比べ同棲率が低く婚外子に対する抵抗感が大きい。このような背景の中、出生数も減少しており、合計特殊出生率は日本 1.41 (2012)、韓国 1.30 (2012)と世界でも低い国となっている。

(4)また、日本と韓国・朝鮮の両方の文化をあわせ持つ在日コリアンは、マイノリティ社会での伝統的意識を強く持っている(椿ら、2012、2013)。地理的、歴史的、文化的背景が近く、社会的にも類似点の多い日本、韓国、在日コリアンであるが、若い世代の価値観の相違点、一致点について比較した調査はなく、婚姻や家族についての価値観の実態は明らかになっていない。

2. 研究の目的

(1)日本、韓国、在日コリアン若者の家族計画に影響する価値観について、面接調査から明らかにする。

(2)調査結果から得られる家族計画に影響する様々な価値観に対し、それぞれがどの部分の価値観を大事にしているのか、カップル間で十分な話し合いができているのか、どの部分に焦点を当てたセクシュアリティへの支援が求められているのか、について考察し、次世代若者が幸せな家庭を築いていくための、基礎的な資料とする。

3. 研究の方法

(1)研究対象者

20歳以上35歳以下の、日本、韓国、在日コリアン未婚カップル

(2)研究方法

半構成的インタビュー調査

(3)分析方法

作成した逐語録を精読し全体の意味を捉え、意味のある最小単位での文脈を抽出した。抽出された文脈を各分析の視点で、対象者の価値観に焦点をあて、KJ法を用いてコード化し、サブカテゴリー化、カテゴリー化と抽象度を上げながら抽出した。

(4)インタビュー内容

属性：年齢・性別・職業・現在の交際相手との交際期間

結婚に関する価値観：

あなたは将来結婚したいですか。それは、いつ頃ですか。

結婚したい理由または、したくない理由は何ですか。

結婚する上で不安に感じることはありますか。それは何ですか。

できちゃった結婚についてどう思いますか。

家族形成に関する価値観：

子どもは欲しいですか。いつ頃欲しいですか。

子どもは何人くらい欲しいですか。希望する性別はありますか。

子どもをもつことに対してどのように考えていますか。

ワークライフバランスに関する価値観：

結婚しても仕事を続けたいですか(女性)、結婚後も妻が仕事を続けたいとしたら、どう思いますか(男性)。

どのような結婚生活を望みますか。

カップル間での話しあいについて

性交経験はありますか。その際、避妊や性感染症について彼(彼女)と話しあえていますか。どのような内容の話しあいができていますか。

その他、様々な価値観について

晩婚化や少子化の社会現象についてどう思いますか。

自分が大切にしている価値観は何ですか。

4. 研究成果

(1)本研究では、5組10人が日本、韓国、在日コリアン国際未婚カップルであった。本研究対象者の国際未婚カップルの多くは結婚や子どもを持つことに対して積極的な思いを抱いていたが、家族形成に対する不安も多く、特に韓国人男性は経済的な不安を強く抱いていた。また、日本、韓国、在日コリアンの3つの背景のうち、異なる背景を持つカップル間では、国籍やルーツが異なることによる不安が表出され、そこには地理的な問題とともに、家族の理解を得ることの困難性についても表現されていた。ワークライフバランスに関する価値観では、仕事も家事、育児も両立して行っていきたいという語りがある一方、子どもが小さいうちは仕事を辞めて子どもと一緒に時間を過ごしたいという思いもあり、ダブルスタンダードな思いが表現された。また、本研究対象者の語りから、男女の性別役割分業意識の強さも表現された。

日本、韓国、在日コリアン国際未婚カップルへのセクシュアル・ヘルス支援としては、家族計画指導や男女両方への妊娠、出産、育児に関する知識および技術の提供、国籍やルーツが異なることで生じる不安や課題が解消できるような相談窓口の開設と正確な知識提供が考えられた。

(2)本研究では、4組8人が韓国人留学生カップルであった。4組の韓国人留学生カップルの結婚や家族形成に関する思いでは、全員が結婚や家族形成を希望していたが、実際に結婚や出産を迎える時期は学位取得後の就職以降になることが予想され、韓国での平均初婚年齢よりも遅れる可能性があった。今後、韓国人留学生が日本で就職し、生活し続ける可能性もある中で、結婚、妊娠などの私的領域に対しての支援としては、プライベートな問題に対して韓国語で対応できる看護職の確保、及び韓国人同士での意見や情報交換ができるコミュニティ作りの必要性が示唆された。

(3)本研究対象者であった4組8人の韓国人留学生カップルのワークライフバランスに関する思いと日韓の社会現象に関する思い

については次の事が明らかとなった。儒教的精神や家族主義の強い韓国でも現在は共働きが主流であり、これは経済的原因が大きく影響していると考えられた。そのため今後も家事、育児の役割分担やワークライフバランスは人々のセクシュアリティを支える上で重要になってくる。本対象者は妊娠先行型結婚を望んでおらず、結婚を家族の問題として捉えており、自らのセクシュアリティを享受するための、家族計画指導の必要性も考えられた。韓国人留学生が日本で就職し、生活し続ける可能性を考慮したセクシュアリティ支援としては、ワークライフバランスを支援しながら、カップル間で相談した上でリプロダクティブ・ヘルスが享受できるような家族計画指導の必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

Chie Koh, Hiroya Matsuo, Current situations and challenges concerning sexual health among unmarried couples composed of a mix of Japanese, South Korean nationals, and ethnic Koreans born in Japan (zainichi): A qualitative study, Health, 査読有、9、2017、14 - 24
DOI:10.4236/health.2017.91002

高知恵、日本・韓国・在日コリアン未婚カップルの家族形成に関する価値観、大阪母性衛生学会雑誌、査読無、52巻、1号、8 - 11

[学会発表](計 4件)

高知恵、羅卿化、日本在住韓国人留学生カップルのセクシュアリティ~ワークライフバランスと日・韓の社会現象に関する思い~、第19回日本母性看護学会学術集会、2017年6月11日(発表確定)、武庫川女子大学(兵庫県・西宮市)

Kyoungwha Na, Chie Koh, Sexuality in South Korean International students Couples: Feelings about marriage and family planning, The 35th JAIH Western Regional Meeting, 2017年3月4日、神戸大学(兵庫県・神戸市)

Chie Koh, Marriage Concerns among Women of Reproductive Age Stemming from Differences in Nationality and Heritage, 19th East Asian Forum Of Nursing Scholars, 2016年3月15日、Chiba(Japan)

高知恵、日本・韓国・在日コリアン未婚カップルの家族形成に関する価値観、第54回大阪母性衛生学会学術集会、2015年12月

13 日、大阪大学中之島センター（大阪府・大阪市）

6．研究組織

(1)研究代表者

高 知恵 (Koh Chie)

大阪府立大学・看護学研究科・助教

研究者番号：60582319